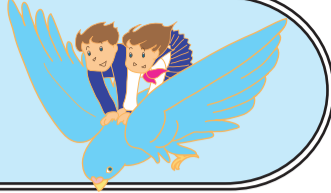


君とつばさ



平成24年10月1日発行
 発行・公益財団法人 交通遺児育英会
 〒102- 東京都千代田区平河町2-6-1
 0093 (電話) 0 3 (3 5 5 6) 0 7 7 1
 (HP) <http://www.kotsuji.com>

©交通遺児育英会

つどい 和やかに懇親の輪

36家族75人、講演・討論・会食で交流



平成24年度の「高校奨学生と保護者のつどい」が、8月4、5の両日、千葉市のホテルで開かれ、全国から希望者36家族75人が参加した。日程を1泊2日に短縮し、全国から一括して参加者を募った初めての今年は、学生、卒業生、保護者による講演と、保護者、奨学生のグループ懇談会が行われ、先輩や仲間と体験談を交えながら交流を深めた。2日目は自由行動で、そのうち12家族20人が東京・日野市の心塾東京を見学した。(2面に特集)

初日、「つどい」開始時刻までに、会場のアパホテル&リゾートに全参加者がほぼ集合し、定刻に中根理事長が開会を告げた。冒頭、東京、関西地区の大学、専門学校などに進学を考えている参加者向けに心塾の現状を紹介するDVD映像が上映された。

東京寮、関西寮の在塾生が、寮生活のようすを説明したほか、他校学生らとの交流ぶりや、寮費、食事、アルバイトの実態などを報告した。

初日に現役の奨学生を代表して、大阪府立大4年田中里依さんが登壇。高校生のころから化学の勉強を志し、「大事なものは、いま自分がしたい、という気持ちだ」と、高校生を励ました。

今回初めて企画された卒業生講演では、心塾東京寮から大学に通った福祉施設職員宮本崇志さんが、幼少のときに失った父親の死をいつまでも受け入れられなかった葛藤を、切々とした口調で語り、会場の保護者たちもしきりにうなずいていた。

保護者として講演した会社員寺嶋さつきさんは、事故で重い障害を持った夫と

▲石橋専務理事が閉会式でまとめを発表、食事に▲宮本崇志さんの講演に聴き入る参加者家族ら

相談会、まず広島で開催



新潟は電話相談
松本は取りやめ

平成24年度の「高校奨学生と保護者の相談会」は、9月8、9の両日、広島市で行われ、4家族の相談に育英会職員が対応した。

進路、学生寮についての相談のほか、地方で下宿している学生への家賃補助を要望する声も寄せられた。相談会は、この後、10月13、14日鳥取県米子市、11月10、11日金沢市、12月1、2日北九州市の順に、実施される予定。

なお、7月の新潟市は、希望者が少なかったため電話相談に切り替えたほか、8月の長野県松本市は希望者がなかったため取りやめとなった。



英語圏3国への海外語学研修に参加した高校生31人が8月中旬、異文化体験を土産に研修先から日程通り無事帰国した。

イギリス研修に参加した28人は13日、カナダに渡った。

▲五輪シンボルマークを掲げたロンドン・テムズ川のタワーブリッジ前で

海外研修生、笑顔で帰国

英・豪・加の31人 異文化体験を土産に

研修生は、滞在先の家庭にリム参加の1人も26日、それぞれ成田空港に到着。ほとんどの研修生が笑顔で日本と交流を重ねてきた。

海外研修は今年9回目。イギリス組は、派遣期間がロンドン五輪と重なり、週末旅行で五輪のシンボルマークで飾られたタワーブリッジを訪ねる機会も。

帰国後、研修生たちは育英会に報告書を提出。「たくさんの人と出会って、会話を伝えることの大切さを改めて強く感じた」「食文化の違いや友好的なイギリス人の人柄など、様々なことを自分の目で見て肌で感じる事ができた」「一番勉強になったのは、英語を学ぶ前に母国語を学ぶべきだとわかったこと」など、様々な異文化体験の醍醐味を報告した。

「一番の収穫は、自身が少しでも人を好きになれたこと」「恥ずかしがらず自分の殻を破り、相手と接すること、何ごとにもチャレンジすることが大切と学んだ」と、自身を見つめ直すきっかけとなったことをつづけた報告も寄せられた。(3面に特集)

事故の体験のほか、いま抱えている生活の困難さ、子育ての難しさなど、悩みや課題を互いに語り合った。

ともに、「同じ経験をした人たちと話すことができ、自分だけ悩んでいるわけではないことがわかってよかった」と感想を寄せる

参加者が多かった。懇談会終了後、全員が合流して閉会式が行われ、石橋専務理事が、討論の内容を全員に紹介し、夕食会で幕を閉じた。

会場のホテル前ではこの日、花火大会があり、自室から花火を見ようと夕食を

早めに切り上げる家族も見られた。

日程短縮の結果、初日7時間の集中スケジュールに参加者は、それぞれ充実した1日を過ごした。

奨学生募集中

2日目は終日、自由行動で、心塾見学のほか、東京スカイツリーやディズニーランド観光に出かけるなど、参加者は、それぞれ充実した1日を過ごした。

「夜色格子」

油彩・カンバス



愛知県立芸術大学 4年
白井 弓子

「夜の収穫は、自身が少しでも人を好きになれたこと」「恥ずかしがらず自分の殻を破り、相手と接すること、何ごとにもチャレンジすることが大切と学んだ」と、自身を見つめ直すきっかけとなったことをつづけた報告も寄せられた。(3面に特集)

江健三郎さんが冗談交じりに紹介している▼この夏の「つどい」で講演した3人の体験談は、聴き手の胸を打った。海外研修から帰った高校生の報告にも、説得力豊かな文章があった。ともに、真情を、「もどき」ではない言葉で、街わず飾らず素直につづれば、本物だけの輝きを放つ好例だ▼と書いて、わが墓穴を見つめる、遅ればせの秋。

本紙は、宝くじの社会貢献広報事業として
助成を受け作成されたものです。



コンピュータに小説を書かせる研究が始まる、と新聞が伝えている。1000編を超える星新一さんの作品を人工知能に分析させ、ショートショートを創作させるといふ▼その小説は、本物か、もどきか。パソコンとインターネットを操って、文をそっくり書き写すコピー(コピー&ペースト)が横行している、と育英会読書感想文講座の講師が苦笑する▼ただし、必要なのはどの美文や名文で、心に響かないものを見つければ、識別はたやすいそう。いまや学生の間では、「もどき文化」がはびこって、コピー発見ソフトが市販されるほど▼宿題でわが子がつづけた文を、ノーベル賞作家が徹夜で手直ししてやっ

子として家族として… 講演会で思いを共有

8月の「高校奨学生と保護者のつどい」では、奨学生の田中里依さん、卒業生の宮本崇志さん、保護者の寺嶋さつきさんが講演、体験談を紹介した。いずれも参加者の共感を呼び、会場がしんみりする場面も見られた。

中学1年のときに父親の事故死を体験した大阪府立大4年の田中さんは、「高校生のときに自分の肌にコンプレックスを持っていたので、化粧品製造に関わりたいと思った」と、化学を勉強するため、母親が勤める薬学部ではなく、工学部に進んだことを説明。将来何をしたいか、を考へて進路を選んだと話したうえで、田中さんは「大事なものは、いま自分がしたい



語るを
と学生
を切(上)、
境(上)、
苦(上)、
さん(上)、
田中(上)、
寺嶋(上)、
家(上)、
寺嶋(上)、
寺嶋(上)



のは何かということ。皆さんのやりたいことは何ですか」と問いかけた。また、大学で、自分よりも「できる」、「面白い」仲間に出会い、積極性が出てきたことなど、大学生生活の充実ぶりを話して、「皆さんもがんばってください」と励ました。

福祉施設で働く宮本さんは、4歳のときに父親を失ったこと、ようやく母親とも向き合えるようになった経過を丁寧に話した。

また、就職を考えて別の大学に入り直して卒業し、就職を機に母の待つ実家に戻った心情も吐露した。会社員の寺嶋さんは、夫が自損事故で障害を負い、妻として、3人の娘を育てる母として、家庭を守った苦労を語った。

夫が後遺症でストレスがたまり、寺嶋さんに辛く当たったり、けんかが絶えな

12家族20人、心塾を見学

「つどい」参加者のうち希望者12家族20人が、2日目にバスで東京・日野市に移動して心塾東京寮を見学した。

参加者は、塾の生活や塾生への日ごろの指導内容について詳しく説明を受けた後、居室や共同施設などを見て回った。その後、昼食



グループ別懇談会で語り合う保護者

体験談に感動と共感の声

—アンケートから—

日程を1日短縮して初の「つどい」だったが、参加者のうち保護者35人、高校生25人が答えたアンケートによると、回答者の大半が「つどい全体について「よかった」と評価した。

自由意見では、「お父さんのこと、そのときの気持ちなど、自分(のケース)と似ていて泣きそうになった」、「親がどんな気持ちで育てられているのかを考えた(以上高校生)」と、子の立場からの素直な感想が寄せられた。

保護者の声では、保護者の講演について、「結婚する、子供を育てることの大



心塾東京寮(東京・日野市)の見学会

変さが子どもたちに伝わったと思う。葛藤の中で生きながら、子育てする力強い母を感じた」、「状況がわが家と全く同じで驚き、がんばろうと思った」などの感想が目立った。

卒業生講演については、「自分の息子と通じる点があり、最後にお母さまの元へ戻られたと聞いて、私まで報われた気になった」、「親子の間でいろいろあったようだが、現在立派に生活されており、安心した」など、子どもなりに葛藤しながら成長する姿が、感動を呼んだことがうかがえた。

新聞2社が取材 つどいなど紹介

「つどい」初日の4日、読売新聞千葉支局、日刊自動車新聞関東支社の記者が講演会を取材、それぞれ記事を掲載した。

読売新聞は、5日付朝刊千葉版で田中里依さんが講演で奨学生を励ましたことなどを紹介。

日刊自動車新聞も7日付2面で、「つどい」が10回目の開催であること、講演やグループ討論が行われたことなどイベント全体を紹介し、海外語学研修や寮の運営など、育英会の事業についても言及している。

燃えろ青春

部活動輝見



鏡で構えをチェック

青森県立弘前工業高校 弓道部 2年 中田 林華さん

りと背筋を伸ばし、28センチの向かって弓を構え、矢を構え、また1か月くえる。手順を作法にまどめた「射法八節」にのっとり、間を計りながら、弦を向かって飛びました。引、矢を放つ。4本。左の手のひらにまめが

青森県立弘前工業高校2年の弓道部員、中田林華さん(17)は、「ただ引いて放つだけ」と思っていた。いま「奥が深い」と思う。始めは、ゴム弓だった。弓に見立てた棒の先に太いゴム・ロープを巻きつけ、そのゴムを引く毎日。その間、先輩から、型や体の動き、あいさつなど、武道としての作法を授けられる。「1か月くらいしてからようやく弓に触れました。

◎孤山のように

津軽平野の真ん中にのびたりと裾野を伸ばす孤高の岩木山は、津軽人の

心よりどころ。それぞれに、自分だけの岩木山がある。

中田さんは、「(山に近づくのは)学校より」家から眺める岩木山がいい。とくに夕日が、すごくきれい

すぐ弓道部に入ったが、ここでも、女子の新入部員は一人だけ。幸い、先輩の女子部員とすぐ仲良くなれた。この春、後輩の女子部員5人も加わった。

部員51人。人気がある。顧問の成田英男教諭は、野球などと違って「弓道は、高校で始める生徒がほとんど。横並びでスタートするからではないか」と言う。跳んだり走ったり、筋力トレーニングなどもない。成田教諭は「弓道で重要なのは集中力」と、体力を鍛えるより集中力を養う指導をしている。

昨年、県高校総体で女子が優勝した。中田さんは補欠として加わった。インターハイにも同行できた。いま3年生部員が抜けた後、女子チームを率いる立場になった。



学校のすぐ隣りは、弘前城公園。ねぶたまつり(8月上旬)も立秋も過ぎて森閑としている。その静けさを破るように、弓道場には、的に当たったときに部員が叫ぶ「よしっ!」のかけ声が、毎日、響いている。

◎思ひ出

マンガを描くのが好き。中学では美術部員だった。中学で美術部員だった。学科のインテリアの勉強の合間に、雑誌に投稿して、作品が掲載されたことも。進学が就職か、迷いはあ

が、「卒業したら弓はやめます」ときっぱり。「弓の空間で、逃げ出したくなる」ことも多かった。

28mの深奥を射抜く



日々の練習でも試合着のはかまを着ける

同じ中学から同校に進学した女子は、自分だけだった。「友だちが一人もいない空間で、逃げ出したくなる」ことも多かった。

海外語学研修特集

高校生 英語圏で異文化体験の夏休み



英語漬け 他国からの留学生も混じっての授業や英語にどっぷり漬かる

この夏、イギリス、オーストラリア、カナダへ語学研修に派遣された高校生31人は勉強に遊びに旅行に、かけがえない体験を楽しんだ。研修生報告書の一部を紹介する。(写真はいずれもイギリス研修から)

英語は世界共通語と理解

外国出身の友人から「自分することにより、英語が世界の知らない世界を見れば、世の共通語であることを改めて界観が変わると聞かされて、理解しました。同時に、伝え世界の名所やものを自分の目で見たいと思えられぬもので確かめたいと思い、参加しました。実際に世界遺産のストーンヘンジを見て、雄大な学力を身につける必要があると強く感じました。

他の国からの人たちと交流 加藤央樹(山形県)

課外活動

ゲーム(右)もバーベキューも楽しい思い出



もつと英語が話せたら...

私のホストファミリーは5人家族でした。みな、会話がもつと楽しかったら、英語がままならない私に、ジェスチャーを交えて英語を教えてくださいました。私もジェスチャーでの意思表示はかなううまくなりました。午後のアクティビティーでは、他国の生徒と交流しました。平岩佑一(徳島県)

週末観光

ソールズベリー大聖堂上、ストーンヘンジに感動



自分の進路を明確にできた

私は、前から親と離れて外国に行きたいと思っていました。最初の日は、不安でした。しかし、自分から話すように心がけ、英語力もつくにつれて、自信が持てるようになりました。ホストファミリーとは、冗談を言い合えるほどに関係を深めることができました。樽川彩光(秋田県)



ロンドン

ピカデリーサーカスで憩う

ディスコは洋画の世界

ホームステイ先での生活は、文化の違いに戸惑うこともありましたが、国籍が違っても4人のホストファミリーと交流し、ゲームや生活の中で自国の文化について話し合っ、有意義な時間を送ることができました。ディスコは、とても貴重な経験になりました。薄暗く、原色のライトがフロアに飛び交う空間や、DJがターンテーブルで曲をアレンジしている姿は、洋画の世界に入り込んだようでした。日本の価値観、常識しか知らなかった私が、他国の学生と交流することで、様々な見方に触れたことは、重大な出来事でした。長谷川修馬(東京都)



サヨナラ

3週間の研修を終えて帰国の日 ソールズベリーでは別れを惜しむ姿があちこちに

心塾キャンプ 山梨で夏満喫



心塾東京寮のサマーキャンプ写真Ⅱが、8月8〜10日の2泊3日の日程で、山梨県北杜市の篠沢大滝キャンプ場で行われた。8回目の今年は、参加塾生33人が4班に分かれ、現地入りに各班が工夫を凝らす方法を採用した。各班とも、ぎりぎりの交通費を手に入れた。心塾を出発。最寄り駅から10分を歩く班、ヒッチハイクする班など、それぞれ独自のルートで道の駅「はくしゅう」に集合し、さらにキャンプ場まで全員で7キロを歩いた。塾生は、川遊びや釣り、肝試し、花火などで猛暑の夏を満喫、仲間との交流を深めた。(文・串田照幸)

日本の素晴らしさを再認識

ホストファミリーや他国の学生らと、夕食をコンプレックスだと思っていたことも、帰った遅めの時間などに、互いの国の違いを話したりしました。その国がいまどういう状況にあるのか、昔ほど日本として誇りを持つことができた。服部有那(愛知県)

あしながおじさん



あしながおじさんのお便り

【5月】 歳と胸の歳月の流れの速さ 体につけて、夢や希望を痛感しました。【7月】 暑い夏になりました。学校の夏休み中、何をなさいますか。【6月】 母の日、父の日がきて、奨学生の皆さんの胸中をいろいろお察ししています。【8月】 私教育英会に送金して

夢・希望へ楽しんで親を大切に

役に立てたらと願っています。【7月】 娘が育英会にお世話になりました。【8月】 私教育英会に送金して

あしながおじさん募集中



我が如古 あゆみさん

専門学校 沖繩中央学園
福祉保育学科3年

「保育士になろう」として、保育園に2日間ずつ行きまして。高校1年のときも職場体験があって、最初と同じ保育園に3日間通いました。1歳児が3歳児になっていて、大きくなったなあと思えて、うれしかったです。子どもと関われる仕事かしたいと思うようになりました」

幼い自我を包み込む

「あゆみ先生」になる

この子 どんな子?



子供が目を輝かしそうな牛乳パックの家

「自宅のある名護市からは遠くて通えませんが、寮があって、近くに親類もいて安心と思いました。学校案内のパンフレットに、子どもを相手に発表する児童文化活動が紹介されていて、その写真を見て楽しそうだなと思って」

インタビュー

「最初の年は、知識。社会福祉、児童福祉、教師論などです。2年生では、実践授業が多くなって、(工

「0歳児は、話しかけてあげて、隣室の級友を歌を熱唱して無心になる。根っからの子ども好き、と映る。実習では、園児から「あゆみ先生」と呼ばれた。卒業後、実家から通える保育園に勤めたいという。間もなく、本物の「あゆみ先生」が生まれそう。

専門学校 沖繩中央学園

「甘やかされたり、逆に厳しくされ過ぎたりといった、幼児期の家庭環境が気になります。被害者を助けることは大切ですが、加害者の情緒面を助けることも大事だと思えます。幼児期がとても重要なので、社会性や道徳性のある子を育てていきたい」

先輩 お元気ですか

大垣荒尾教会 牧師

石束 岳士 さん



略歴

1973年、大阪・藤井寺市生まれ。91年、私立四天王寺羽曳が丘高校卒業。97年、関西学院大学神学部入学。2001年、同大学を卒業し、同大学大学院神学研究科修士課程入学。03年、同大学院卒業後、4月、岐阜県・大垣荒尾教会に教師試補として着任。05年10月から現職。

命みつめ一途の献身

十説教

「学校の先生は、生徒が1年ごとに変わるから、毎年、同じ話を繰り返せませうが、教会は、古くからの会員(信者)も通う場所だから、毎週、新しい話でなければなりません。毎日、違う話題を書き続ける新聞のコラムニストは偉いなあと思います」



毎週、新しい話を盛り込む説教の準備

「教会にとっての理想は、もちろんネコ型」と、大垣

「信者には、ネコ型とイヌ型があります。ネコは家につく、と言われるように、異動で牧師が別の教会に移っても、同じ教会に通い続けるネコ型。牧師を慕って、異動先の教会について行ってしまいうイヌ型。



礼拝堂が説教の場

天国行きの切符が手に入るわけではない。自分だけが救われるのではなく、洗礼の向こうに、牧師への道を見出した。事故から4年、半、大学と大学院で神学

「礼拝を充実させたい」と言う。「集う人たちに喜んで礼拝してもらえよう」と、神の語りかけとして語っていく伝道」を思い続ける。

「一生涯すべてを神にささげる、献身」の道を選んだ伝道者」だから。

人生が激変した。考え続けた。

「自分も死んでいかもしれない。父に、重い障害を負わせてしまった。一人の人生を取り返しのきかないほど損なってしまった。運動中の判断ミス。はかな

「心境の変化はありませ



家庭菜園で家族の時間を大切に過ごす

「敷地内にある間は、自宅にいても教会にいても、プライベートも休みもありません。いつ、だれが訪ねて来るか、電話がかかるかわかりませんから」

「家族とスーパーに買い物に出かける時、Tシャツやジーンズを着たりします。そのときは、束の間の解放感を味わいます」

教会は、信者が献金によって支える。すぐわきの駐車場も、車で通う会員のために信者が確保してくれた。

その端に、土を入れて菜園を作った。日本一を競うほどの強い日差しの下、小学1年生の愛娘、ひかるちゃん、ササゲやミニトマトを摘む間、「すべてを忘れる」とほほを緩ませる。

一連のオウム事件の後、信仰そのものが警戒されがちになった。それまでせっかくなかった教壇に立つ

「礼拝を充実させたい」と言う。「集う人たちに喜んで礼拝してもらえよう」と、神の語りかけとして語っていく伝道」を思い続ける。

「一生涯すべてを神にささげる、献身」の道を選んだ伝道者」だから。

「看護って何」を熱く説く

週末は愛息気遣い弁当ディナー

お母さん ただいま 奮闘中

息子2人が、札幌市の高
校に通うため下宿暮らしを
始めて、北海道苫小牧市の
苫小牧看護専門学校専任教
員生活にぼかっと空白が生



▲病室を模してベッドが
ずらりと並び実習室で
学生は看護精神を学ぶ



▲立つ像は
ピンチの守り
口ナインの
関木さん
関木さん
関木さん
関木さん



木村さおりさん

看護学校専任教員
北海道苫小牧市

まれるどころか、「かえっ
て忙しかった」と言う。

■曲折の日々

下宿では、週末の食事が
出ない。別々の高校だが、
ともにサッカー部員の、3
年の長男太一君(18)と2
年の二男一斗君(17)のた
めに、週末には、弁当作り
に精を出す。

1時間のドライブ。食べ
盛りの息子たちに、目いっ
ぱいの思いを込めたディナ
ーを届ける多忙な生活も2
年目になった。

校を受験。
「根が怠け者なんです
ね。年末に早々と合格が決
まったら、その後の地元
学校を受験する気にならな
くて」、そのまま入学を決
めた。ただし、学校は福岡
県北九州市にある。気候も
文化も違う九州へ乗り込ん
で修学。3年後、地元に戻
ってきた。

室蘭市は、大手製鉄会社
の企業城下町。その製鉄会
社の病院で看護師になる
と知って、ためらうことな
く、病院付属の看護専門学
校を受験。

「根が怠け者なんです
ね。年末に早々と合格が決
まったら、その後の地元
学校を受験する気にならな
くて」、そのまま入学を決
めた。ただし、学校は福岡
県北九州市にある。気候も
文化も違う九州へ乗り込ん
で修学。3年後、地元に戻
ってきた。



講義室で

コンピューター室で



かれるものがなかった」と
一也さんが他界する1年
前に起きた神戸連続児童殺
傷事件が、ずっと引がか
っていた。「あまりに衝撃
う。子どもの心の病を直
す」。そのまま入学を決
めた。ただし、学校は福岡
県北九州市にある。気候も
文化も違う九州へ乗り込ん
で修学。3年後、地元に戻
ってきた。

が、ひ弱に映る。「他人の
目を気にしすぎて、自己評
価が低く、自信なさそうな
姿を見ていて、もう一度、
自分も学生と一緒に看護を
勉強できるかもしれないと
思って」、いまの職場に飛
び込んだ。

遺跡の神秘を
絵に表したい
熊本県 川口 明子
将来、世界中の遺跡を觀
光してみたいと思う。
鉱物も好きだ。キラキラ
してきれいということでは
なくて、ゴツゴツした岩肌
の中にも神秘的な結晶が含
まれているところがとくに好
ましい。

「こんな子育てがいい、
一回りも若い看護師たち
が、ひ弱に映る。「他人の
目を気にしすぎて、自己評
価が低く、自信なさそうな
姿を見ていて、もう一度、
自分も学生と一緒に看護を
勉強できるかもしれないと
思って」、いまの職場に飛
び込んだ。

「こんな子育てがいい、
一回りも若い看護師たち
が、ひ弱に映る。「他人の
目を気にしすぎて、自己評
価が低く、自信なさそうな
姿を見ていて、もう一度、
自分も学生と一緒に看護を
勉強できるかもしれないと
思って」、いまの職場に飛
び込んだ。

「こんな子育てがいい、
一回りも若い看護師たち
が、ひ弱に映る。「他人の
目を気にしすぎて、自己評
価が低く、自信なさそうな
姿を見ていて、もう一度、
自分も学生と一緒に看護を
勉強できるかもしれないと
思って」、いまの職場に飛
び込んだ。

■現場の緊張

実習する学生に付き添っ
た。臨床の現場に向くと
びに緊張感が高まる。「現
場はいない」と思う。
「患者を前にした現場で
は看護師が教える。私たち
は、そのベッドに行くまで
に患者に何か必要かを考え
させ、実践に向かわせる。
その上で、それが最良の看
護かを考えさせます」

■現場の緊張

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

■転機の発心

転機だった。地元で、不
登校や発達障害などの問題
を抱える、思春期の子をケ
アする施設が生まれたとき、
「やる気」が、生来の「本
気」に変わった。すぐ、看
護師として就職。
「こんな子育てがいい、
一回りも若い看護師たち

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

高校生の 声

今も時間があれば、将棋
を指します。時々、友だち
と勝負しますが、一人だけ
勝てない相手があります。自
分が将棋を始めるきっかけ
になった友達で、その仲間
に勝てるように将棋の勉強
をしていこうと思います。

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

「お父さんは、今ではほ
とんどの大工さんができな
い、墨付けができる大
工さんだった」と話して
聞いて、自分もやってみ
たいと思いました。
学科では、山林に行っ
て、建築に関係したことを
学べるので、とてもよかつ
たと思います。

私の学び舎 夢の扉

*まず化学

「化学が一番おいしいじゃん！」

大阪大学工学部3年の平野みさとさん(22)は、入学してすぐ受けた講義「先端科学序論」で、いまのコースを選んだ。

教授たちが代わる代わる登壇して、研究や科学の話をしてくれる。物理も、化学も、生物も、どの分野にも興味がある。でも、学問の垣根がなくなるにつれ、「化学を専攻すれば、物理寄りの研究も生物寄りの研究もできる」という教授の言葉がとりわけ耳に残った。

たぶん自分は理系向き、と小さいころから決めていた。とくに何がというのでなく、ぼんやりと。

褒められ上手の結晶

同級生が男女2人ずつしかいない山間の小学校。崖の中腹からしみ出す水を見て、それはなぜ？と考えた地層の研究を、理科の先生が褒めてくれた。

中学生のとき、坂道を台車が滑り落ちる速さの変化

を調べた加速度の研究で、怖かったはずの先生が、授業中にわざわざ自分の名を挙げて、ベリー、ベリー、ベリー・グッドと、レポーターを激賞してくれた。

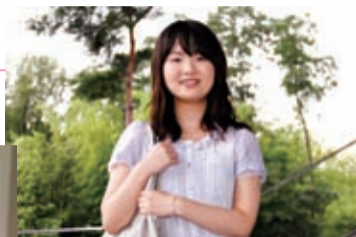
高校生になると、なぜか化学の成績がよかった。テストを返すとき、先生がいつも私が褒められていました。2人で文系・理系を選んで所属する。有機化学

を調べた加速度の研究で、怖かったはずの先生が、授業中にわざわざ自分の名を挙げて、ベリー、ベリー、ベリー・グッドと、レポーターを激賞してくれた。

先月、その褒め言葉を後のある企業に就職したい、と考えている。理系女子育成チームの申し子のような近場でアパート生活。4年生になる準備だ。

「リケジョ？ すみませ

大阪大学 工学部応用自然科学科
応用化学コース 3年
平野 みさと さん



分担していたみたい」
実際、大学生になってみると、その同級生は文系に進んでいた。

*次にダンス

工学部のある吹田キャンパスは、万博公園・太陽の塔のすぐ隣りにある。入学以来、育英会の心塾関西寮から、ここに電車で通って来た。

塾生の課題の一つ、読書感想文では、嫌いなはずの文章に、いつも「大変よく

系の研究室で、1年間卒業研究に明け暮れるのが望み。 「先輩を見てみると、毎日、夜10時過ぎまで研究室にいるようです。帰りが遅くなってもいいように」

退寮のとき、提出した作文に「朝晩の食事がおいしくて温かくて……寮に入ってから明らかに食べる量が増えました」と記した。で、3年生になると同時にベリーダンスのレッスンに通い始めた。苦手なスポーツ系のジムは避けて、踊ってストレス発散。

でも、何よりの気分転換は、東方神起の歌を聴くこと。大阪でのライブには、実家から母と弟も駆けつけて、3人で夢中になった。

「感激で涙が出ました」「リケジョ」を検索すると、有力大学や企業が、理系女子学生や研究者の育成・支援を競っていることを伝える、無



宝くじは、 地方自治体の公共事業等に 幅広く使われています。



宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。